

九州
から見た
雪舟
展

没
後
五
百
年

平成18年

2月21日(火)～3月26日(日) 福岡市美術館

古美術企画展示室 ■月曜休館 午前9時30分開館—午後5時30分閉館(入館は午後5時まで)〒810-0051 福岡市中央区大濠公園1-6 tel:092-714-6051 fax:092-714-6145

観覧料—一般200円(150円)高大生150円(100円)中学生以下無料

()内は20名以上の団体料金。シルバー手帳(福岡市発行のもの)、療育手帳、身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳所持者は無料。当料金でほかの常設展示もご覧になれます。

講演会—「九州から見た雪舟像」2月25日(土)午後2時～3時30分 福岡市美術館講堂 講師—渡辺雄二(本館学芸員)

申込方法—往復はがきかファクシミリで参加者のご氏名、ご連絡先をご記入の上、福岡市美術館(雪舟展講演会係)までお申し込みください。2月13日(月)必着。応募者多数の場合は抽選。





8



7



4



3



1



2

雪舟は九州にいた!

室町時代の水墨画、いや日本絵画、日本美術を代表する作家である雪舟を九州からの視点で見直してみようという展覧会です。

雪舟の活動の多くは山口を中心とした地域で行われ、九州も無縁ではありません。しかし、実際に雪舟が九州でどのように活動したかは、ほとんど明らかではありません。もちろん、

明(当時の中国)に入国した雪舟は、出帆したおりに北部九州を訪れたと思いますが、確かな記録としては帰国して七年程のちに大分で「天開図画樓」というアトリエをもっていたことが知られます。

そこでの雪舟は前に海をながめ、連山を後にした、まさに天開図画(天が開き図画となる)の景勝の地にあつて、画作にふけていたようです。しかし、この大分在任の前後の行動はほとんどわかりません。

一説に英彦山(福岡県)の山中に六年程滞在し、現在も残る庭園を制作したという江戸時代の紀行文もありますが真偽は不明です。

このように九州での雪舟の確かな動向を知ることがむずかしく、作品ばかりか史料もごくわずかです。そのなかで、近年、雪舟と西国の曹洞宗寺院との関係を示唆する資料が確認されたことなどから、雪舟の当地での活動を検討し直したいと考えました。

また、雪舟の没後も雪舟の弟子や雪舟を慕った画家たちが九州で雪舟の画風をもとに新しい絵画を生み出しました。そして、九州の江戸時代の画家たちの模本のなかに雪舟作品の写しがあり、今は失われた雪舟の作品を推測する手だてにならないかと考えます。

本年は雪舟没後五百年とされる記念の年にあたり、雪舟が活動したこの地から、雪舟について考えてみてはいかがでしょうか。

■主な出品リスト

文殊菩薩図模本	原本・全巖東純賛	東京(国立博物館)
「鳥隠集」	桂庵玄樹	泉岳寺
釈迦三尊図	伝・雪圃筆	法積寺
桃岳瑞見像		瑠璃光寺
月舟承用像	雲橋筆	金龍寺
達磨図	雲輝等悦筆 賢巖神悦賛	福岡市博物館
釈迦三尊図	周徳筆	高伝寺
山水図屏風	葉山朝湖筆	佐賀県立美術館博物館
「甲子夜話」続編	松浦静山	松浦史料博物館
山水図屏風	矢野雪叟筆	熊本県立美術館
山水長巻	矢野良勝筆	八代市立博物館
「因書考略記」	一枝軒梅船一進	安養寺
寿老図	等嶺筆	鹿児島市立美術館
尾形家絵画資料		福岡県立美術館
三谷家絵画資料		大川市、個人



- 地下鉄** 空港からは福岡空港駅より15分、JR博多駅からは博多駅より10分大塚公園駅で下車、3番出口より徒歩10分。天神からは天神駅より5分で大塚公園駅下車、3番出口より徒歩10分。または、天神駅から8分で六本松駅下車、2番出口から徒歩10分。
- 西鉄バス** 博多駅からは、交通センターより[系統番号13・140]で城内・美術館駅下車、徒歩3分。天神からは、協和ビル都より[系統番号13・140]で城内・美術館駅下車、徒歩3分。[系統番号12]で赤坂3丁目下車、徒歩5分。または、天神コアビル都より[系統番号7, 14, 200, 201, 204, 205]で赤坂3丁目下車、徒歩5分。
- 都市高速** 都市高速西公園ランプ(唐津方面行のみ降車可能)で降車、南方向へ車で5分。または百道ランプ(東西両方向降車可能)で降車、南東方向へ車で10分



6



5

- 1 | 桃岳瑞見像 周徳筆 金龍寺 2 | 達磨図 等嶺筆 佐賀県立美術館博物館 3 | 墨跡の写 江月宗玩写 泉岳寺 4 | 四季耕作図屏風 等嶺筆 黎明館
5 | 富士三保清見寺図 矢野雪叟筆 八代市立博物館 6 | 雪景山水図 木村探元筆 鹿児島市立美術館 7 | 寿老図 雪舟筆 福岡市美術館 8 | 龍隠図 木村探元筆 黎明館